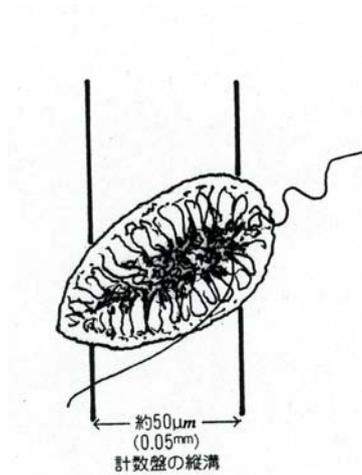


3 シャットネラ オバータ

【重要種】

Chattonella ovata (ラフィド藻)



1. 2. 3. 典型的な細胞

スケールバー 20 μm (0.02mm)

特記事項

平成16年に瀬戸内海で初めて漁業被害を引き起こした重要種。シャットネラ アンティカ、シャットネラ マリーナとほぼ同等の密度でハマチ等の斃死を起こすと考えられ、10cells/mL以上になると餌止めが望まれる。シャットネラ アンティカ、シャットネラ マリーナやその他の有害種と混合して出現することが多い。

形態および泳ぎの特徴

紡錘形から楕円形。やや扁平で、一見ワラジを連想させる。ゆるやかに回転して泳ぐ。体長45~80 μm 。黄褐色。

類似種との区分

本種の大きさは、シャットネラ アンティカ、シャットネラ マリーナに近いが、本種は外部原形質に液胞が著しく発達し、色素の分布しない領域が多いことから区別できる。

出現期、水温、水域

5月中旬~11月下旬（主に7月上旬~8月上旬）、16~31°C（主に26~30°C）、県下全域

赤潮、被害事例

赤潮：顕著な着色事例なし。100cells/mL以上の出現事例は、平成14、16年。

被害：平成16年（備讃瀬戸西部）

県外の事例：平成16年（広島県備後灘）